

ヨコナラビ文化と桜梅桃李



梅から桜へ、そして桃と李（すもも）の花も咲き始め、春爛漫の季節に入ってきました。今、「世界の中の日本人ジョーク集」がよく売れているといいます。日本人ほど、世界の中で自分たちがどう見られているか、を気にする国民も少ないでしょう。しかも、相当にきつく皮肉られているのに、それを甘受している。そういう私自身もジョークは大好きで、現役の特派員時代には、内戦の煙がまだ残る中米ニカラグアなどでも、食事のおりなど、心を割った同志とジョークを交し合ったものでした。

ラテン・アメリカの人々は、もともとジョークが好きなのでしょうが、ちょっとした私の小咄に折りたたみかけるように、辛らつなときに爆笑を誘う挿話を飛ばしてきました。その中には、先の著書に書かれているようなものもありました。ここでは、私が訪れた先々で最もウケた日本人についてのジョーク二つを紹介してみましよう。（ホームページの中には詳しく出ています）

その1

「ある日、大洋を航海していた船が事故で沈没してしまいました。海に放り出された乗客は、遠くに見える島に向かって泳ぎだしました。その中のたった3人だけ、島に泳ぎ着くことができたのです。男2人と女1人でした。さて、この男2人は女1人をめぐってどんな行動をとったのでしょうか」

答え：

フランス人：1人は彼女の夫になり、もう1人は彼女の愛人になりました。

イギリス人：なんと2人は、彼女を放っておいて、自分たち2人で愛し合いを始めたのです。

イタリア人：2人は彼女を自分が手に入れようと、決闘を始めたのです。

では日本人はどうしたのでしょうか？

日本人：2人は、島のどこかに電話がないかとあわてて探しに出かけました。本社に電話して、上司の指示を仰ごうとしたのです。

その2

「ゴーッ いよいよ沈没しかけたタイタニック号から、男も女も我先にと救命ボートへ避難しようとした。大混乱になろうとしている現場で、婦女子を優先させようとして船長が説得を試みます」

まずアメリカ人男性に：「キミはヒーローになりたくないか！」

イギリス人男性に：「あなたは真性のジェントルマンだ！」

ドイツ人男性には：「君の国の法律ではそうになっているよ」

そして日本人男性には：「皆がそうしているからあなたもそうした方がいい」

このように、日本人は、まず周りに合わせようとするんですね。周囲の目を気にし、突出することを恐れ、横並びを好み、他人のするように自分もする、という傾向を持っている。日本人は、他人の目を気にしすぎるように思います。

前者は個人的なことまで上司に指示を仰ごうとする会社人間の性向、後者は他人と同じようにしていると安心できる、という、どちらも個人としての主体性の弱さをジョークっ

ています。



これは、“みんなで渡ればコワクナイ” また “ヨコナラビ” 文化にも通じているでしょう。そんな中、今の時期にぴたりの古くからの言葉がありますね。

「桜梅桃李」——桜は桜、梅は梅、桃は桃、そしてスモモはスモモとして精いっぱい花を咲かせていくところに、その美しさが出てくるわけです。

人間の世界も、やたら他人を羨んだり、無理な背伸びをすることなく、自分らしく自然体で生きたとき、心も穏やかで美しい人生が開かれていくのではないのでしょうか。顔は化粧でごまかせても、生命そのものまで輝かすことはできません。

お金、地位、名誉、また “周囲と同じでなければ” との心に引きずり回されて、人生そのものを壊してってしまう人の多い世相に、主体性を持ち「昨日の自分より今日の自分」と自らを磨き向上をめざす中に、より充実の人生がやってくるように思うのですが……。